令和6年度　学校経営計画に対する中間評価

石川県立飯田高等学校

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	主体的･対話的で深い学びにより、知識･技能、思考力･判断力･表現力を育成する。	①	習熟度別の学習指導を推進し、個に応じた学力の伸長を図る。	模擬試験受験者の英数国総合偏差値で60以上10%、55以上20%、50以上50%の3つの項目のうち Ａ： 全て達成 Ｂ： ２つ達成 Ｃ： １つ達成 Ｄ： 達成なし	１年　D 60以上　6.1% 55以上　18.2% 50以上　33.3% ２年　C 60以上　10.4% 55以上　14.6% 50以上　39.6% ３年　D 60以上　8.8% 55以上　24.6% 50以上　31.6%	成　果：７月進研模試では、２年生の中位層は育ってきている。 課　題：１年生は上位層が薄い。 改善策：学年会や進路連絡会を通して生徒の学習状況について情報共有し、模試結果に基づいて立てた指導方針に沿って、苦手科目、弱点分野を補強していく。
		②	予習･授業･復習のサイクルを確立し、自律的学習習慣を定着させる。	進路アンケートにおいて、授業外での学習時間の平均が、学年＋1時間を100と換算したとき Ａ： 70以上 Ｂ： 60以上 Ｃ： 50以上 Ｄ： 50未満	C 51	成　果：４月と比較すると９月のアンケートでは１，３年生は割合が増加している。 課　題：学力幅が大きく、一律での指導は難しい。 改善策：授業の充実に継続的に取り組み、隙間時間の活用や自主学習につなげる。また、ロイロやClassiの活用を通して生徒への適切な声掛けを行い、学習のモチベーションの維持・向上に努める。さらに、他を牽引するような上位層を育成する。
		③	公務員試験に対応できる幅広い知識と情報処理能力を育成する。	公務員模試でのBランク以上の生徒の割合が Ａ： 60%以上 Ｂ： 40%以上 Ｃ： 30%以上 Ｄ： 30%未満	D 10%	成　果：６回の実施のうち安定してBランク以上を達成できる生徒は10名中１名である。 課　題：指導方法の共有を徹底する。 改善策：年間スケジュール・教材・資料等を適切にまとめ、学校の指導力を向上させる。
		④	多角的に考察できる学習課題を精査し、取り組ませることで、思考力を育成する。	授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」の肯定的評価が A:　90%以上　B:　80%以上 C:　70%以上　D:　70%未満	B 86.6%	成　果：⑥と⑩の評価を平均すると、わずかに達成できなかった。 課　題：学力の差が大きいため、指導に困難が生じている。 改善策：PT教員による研究授業を題材とした授業の研修会により、教員の授業力を向上する。
		⑤	読書を通して、知識や教養を高め、生き方や社会問題を考えることで深い学びにつなげる。	図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の年間利用率が Ａ： 45%以上 Ｂ： 40%以上 Ｃ： 35%以上 Ｄ： 35%未満	D 24%	成　果：年度当初は、震災の影響により書棚の破損や、蔵書の散乱により図書の貸し出しができなかったが徐々に整理が進み、貸し出しが再開できた。 課　題：今後図書のイベントを再開できるように整理を進めていく。 改善策：破損した書棚を新調し、蔵書の整理を進める。

学校関係者評価委員会の評価	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善指導	

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2	効果的なICT機器の活用法を研究し、各教員の授業力を向上させるとともに、そのノウハウの共有によって学校全体の教育力を高める。	① GIGA校内研修年間計画に基づいて研修を進める。	授業で年間5回以上1人1台端末を用いた授業をした教員が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	A 92.6%	成　果：９月時点で目標をクリアしている教員が９０％を超えている。 課　題：今後もタブレット端末の活用を継続していく。 改善策：教科に使用率のばらつきも見えるので、特定の教科で教科研修会を設定する。
		② 生徒の主体的な学習姿勢を涵養するため、タブレットを用いた授業を推進する。	1人1台端末を活用した授業では、主体的に学習しようとする意欲が高まると感じた生徒が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	B 83.4%	成　果：肯定的な回答をした生徒が85%となっている。 課　題：昨年から若干減少している。 改善策：ICT機器も活用したPT教員の研究授業を活用して、教科研修会を設定する。
		③ ICT機器の活用によりペーパーレス化を図るなどして、業務の効率化を図る。	ICT機器の活用により業務の平準化・効率化が進んだと感じる教員が Ａ： 95%以上 Ｂ： 85%以上 Ｃ： 75%以上 Ｄ： 75%未満	B 90.1%	成　果：情報周知や、資料の共有が進んで効率は上がっている。 課　題：ICT機器に追われているという印象を持っている教員がいるようである。 改善策：質問の文言の改善により、アンケートと回答のミスマッチを防ぎたい。

学校関係者評価委員会の評価	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善指導	

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3	学校行事や部活動、ゆめかな等の活動を通して地元中学校や地域社会と連携し、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	① HR活動や委員会活動を通して、集団における人間力を育む。	意見交換を行い、協働した取り組みが日常的にできたと考える生徒の割合が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	A 91.0%	成　果：９月時点での到達度が90%を超えている。 課　題：生徒が主体的・協働的に取り組めるよう全教職員が支援・指導を継続する。 改善策：多少時間がかかっても生徒同士が活動する場面をより増やしていく。
		② 総合的な探究の時間の学習を通して、外部伴走者や地域社会と協働して課題解決へと向かう人材を育成する。	金沢大学能登学舎（市内三崎町）・NPO法人ガクソー（市内飯田町）・探究ルーム（校内、外部の方が滞在しているとき）を利用した生徒の割合が Ａ： 50%以上 Ｂ： 40%以上 Ｃ： 30%以上	B 40%	成果：１年生51名、２・３年生44名（９グループ）が総合的な探究の時間において外部伴走者の助けを借りながら、探究学習を進めることができた。 課題：外部伴走者と関わる機会を増やし、より協働的な学びを目指す。 改善策：新設されたグループに対し、外部伴走者がコミットできるような仕組みづくり。
		③ 地元産業に貢献する人材育成のため企業見学会や講演会を実施する。	地元への興味・関心や貢献意欲が高まった生徒が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 30%未満	未	震災により「地元企業見学会」が実施出来なかったため未評価 「ふるさと企業を知る会」の実施を予定しているため、その後評価したい。
		④ 挨拶、身だしなみ、交通ルール遵守など、社会生活の基盤を身に付ける。また、生徒一人一人が「いじめのない学校づくり」を心がける。	集団や個々の場面でも、いじめのない学校づくりを意識して規則や規律を守ることができた生徒の割合が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	A 96.3%	成　果：９月時点での到達度が90%を超えている。 課　題：ごく一部が身だしなみが乱れている場面もある。 改善策：継続して全教員が指導にあたる。
		⑤ ボランティア活動や地域行事への参加を積極的に進め、地域社会の一員として人間力を育む。	地域行事やボランティア活動を通して地域に関わろうとする意欲が高まった生徒が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	A 85.8%	成　果：９月時点での到達度が85%を超えている。 課　題：震災もあり関心が高まっていることもあるが意欲の継続が課題である。 改善策：活動を通じて成長することを広く周知し多くの生徒が携わるように工夫する。
		⑥ 地域学や観光ビジネスなどの授業を通して、地域社会との連携を深め、異世代との交流を持つことでコミュニケーション能力を育てる。	異世代の方との交流を深めることで、コミュニケーション能力を高めることが出来たと思う生徒の割合が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	未	現在、授業において交流活動などを行っているが評価するまでの進度に至っておらず、最終評価にて評価します。

学校関係者評価委員会の評価	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善指導	

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4	教職員自らが効率的な業務や指導法の改善に努め、ワークライフバランスを実現する。	①	若手教員早期育成プログラムの推進と併せ、研究授業や互見授業により授業改善を図る。	教員として成長できたと感じられる。 (ア)よくあてはまる　(イ)あてはまる (ウ)あまりあてはまらない　(エ)あてはまらない (ア)が Ａ： 80%以上　Ｂ： ７０%以上 Ｃ： 60%以上　Ｄ： ６０%未満	A 81.3%	成　果：上半期の校内研修を通して、8割以上の若手教員が成長を感じていた。 課　題：ベテランの教諭が少ないため、講師となる教諭や研修内容に偏りが生じていた。 改善策：若手教員から誰にどのような研修を受けたいか、悩んでいることはどんなことかアンケートを実施し、要望に即した研修を行う。
		②	授業改善アンケートの結果をもとに授業改善を図り，分かりやすい授業を展開する。	授業が分かりやすいと感じた生徒が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	B 87.9%	成　果：授業改善アンケートでは、Ａ「あてはまる」Ｂ「だいたいあてはまる」の肯定的評価が多い。 課　題：この割合を減らさないよう、さらなる向上を目指したい。 改善策：ICT機器も活用したPT教員の研究授業を活用して，教科研修会を設定する。
		③	研修などを通してカウンセリングマインドを涵養し、多様な生徒への指導力を高める。	研修会で得た知識などを実践しようとしている教員が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	A 100%	成　果：今年度は開催を昨年度よりもさらに早め7月に行った。研修会で得た知識などを実践してみたいと「思う」「まあまあ思う」と答えた回答が100%であった。 課　題：さらに充実した研修会を目指したい。 改善策：アンケートをもとに今後の研修会についてテーマを検討する。